

『贋作マクベス』

作・中屋敷法仁

登場人物

マクベス

マクベス夫人／魔女

王子マルカム

バンクォー／王ダンカン／イングランド王

将軍マクダフ

開幕

布で構成されている舞台。
真正面にある布には切れ目があり、出入りが可能。

「演劇部」

演出 (M)、ヤマダ (Y)、登場。

マナブ ダメだってそんなのっ。

ヤマダ お願い、マジお願いだからー。

マナブ だって、シェークスピアだよ。権威ある作品だよ。

そんなオフザケ、許されないよ。

ヤマダ いや、シェークスピアっていうことに関しては、

俺も真剣に取り組みたいって思ってるし、リスぺクトとかもあるよ。でもさ、それとこれとは話が違うじゃん。

マナブ どういう意味？

ヤマダ だからさ、俺の能力を最大限に利用する為にさ

あ・・。

マナブ 全っ然理解できないよ(ふいつ)。

ヤマダ 後悔させない。後悔させないよっ。

マナブ 寝言は寝てから言えっ。

ヨリコ (K)、登場。

ヨリコ どしたのー？

ヤマダ あ、ヨリコ。ちよっと、聞いてよー。

マナブ 例の話だよ。しつこいったらありやしない。

ヤマダ 俺は本気だよ。真剣に考えてるよ。

マナブ そういう問題じゃないんだっての。

ヨリコ もー、やらせりやいいじゃん。そこまで言うなら。

マナブ おいおい。

ヨリコ 熱意を買いましょうよ。

ヤマダ くふー。

マナブ バカ言うなってっ。シェークスピアだよ。シェー

クスピアで「モノマネ」はまずいだろー。

ヤマダ 大丈夫。俺のモノマネ、すごいいんだからー。

マナブ すごさはどうだっていいんだよっ。

ヤマダ

俺が芝居の要所要所ですばらしいモノマネを披露すれば、絶対お客さんも楽しめると思うのおー。

ヤマダ そんなことしたら、マクベスの芝居自体がぶち壊れるよ。本末転倒だよ。安心して。きっと上手くいくよー。

マナブ つーか、単に自分がやりたいだけでしょ。

ヤマダ 一回だけ見てよ。後悔させない。後悔させない。

マナブ ・・・じゃあ、いいよ。やれよ。

ヤマダ 後悔させない。

マナブ わかったって。

ヤマダ それでは、あなたに贈る『モノマネ・オンパレード』。

マナブ ・・・。

ヤマダ 『古畑任三郎』。

ヤマダ、モノマネをする。

マナブ ・・似てねーよっ。大丈夫かっ。

ヤマダ 続きまして、アニメ『アンパンマン』から。

マナブ はい。

ヤマダ 『かばおくん』。

マナブ は？

ヤマダ、モノマネをする。

マナブ 似てるけど。みんなきつと分かんないよ。

ヤマダ 続きまして、動物シリーズ。『ウマ』。

ヤマダ、モノマネをする。

マナブ ・・・。

ヤマダ 続きまして、効果音シリーズ。『銃声』。

ヤマダ、「ズキューン」。変な顔。

マナブ 顔芸だろ。モノマネでも何でもねえよっ。

ヤマダ ・・「ズキューン」。

マナブ わかったって。

ヤマダ 続きまして。『加護亜衣』。

ヤマダ、タンポポ『恋をしちゃいました!』を熱唱。

マナブ ・・それ、もはや「カラオケ」だね。モノマネでもなんでもねえじゃん。
ヤマダ 続きまして『赤ちゃん』

ヤマダ、モノマネをする。

ユウ君 (T)、登場。

ユウ君 何だ何だこりや。何の騒ぎだ。
ヤマダ あ、ユウ君。ヤマダがさー、モノマネやりたいて言うんだよ。

ユウ君 モノマネ？

ヤマダ (赤ちゃんをやってみる)

ユウ君 ふざけんなっ。そんなの俺は認めんぞっ。
マナブ でしょ？ 俺もさつきからそう言っただけど。。

ユウ君 その程度のモノマネで調子に乗るなっ。

マナブ ・・怒るポイントおかしくない？

ユウ君 よし。俺が手本を見せてやる。

マナブ ユウ君？ ユウ君っ？

ユウ君 『美川憲一』。「もっと端っこ歩きなさいよ」

マナブ 似てなあい。。。。

ユウ君 「あんた、何見てんのよ。あたしの事好きなの」

ヤマダ (古畑)「えー、私も初めそう思いました。しかし実はそうじゃなかった」

美川と古畑のセッション。

マナブ 対抗すんなよっ。

ユウ君 「微妙〜」。

マナブ どっちも微妙だよ。おい、ヨリコ、なんとか言っつてやれ。

ヨリコ えー。まあ、いいんじゃない？

マナブ お前もよおー。。。

ユウ君 (ヤマダに) なかなかやるな。

ヤマダ (ユウ君に) 君もね。

マナブ 何火花散らしてるんだっ。真面目に芝居やる気あるのかっ。

トモヒロ（○）、登場。

トモヒロ マナブっ。僕は納得できないぜ。

マナブ どうしたトモヒロ。

トモヒロ 今回の台本。僕の希望が、全然反映されてないっ。こんなのやりたくないぜ。

ヨリコ どんな希望出してたの？

トモヒロ 僕はもつと、ハードボイルドがやりたかったんだな。

ヤマダ ハードボイルド？

トモヒロ うん。『ゴルゴ13』みたいなやつ。やりたいの。無理だよ。だってこれ、シェークスピアだもん。

ユウ君 いや…ってか、お前の顔は全然ハードボイルドじゃないよね。

ヤマダ うん。なんかお前は、アンパンマンに出てきそうだよ。アンパンマン・・（かばお君のモノマネをする）

マナブ かばお君っ。落ち着いてっ。

トモヒロ いやー、やりたい。『ゴルゴ13』やりたい。

ユウ君 かわいい・・。

マナブ だめだめ。そんなのやる余地はないの。

ヨリコ 全員揃ったね。んじや、早速、やろうか。

マナブ OK。全員小道具チェックして、スタンバイ。は？

ヤマダ なんの話？

ユウ君 さあ？

ヨリコ 皆聞いてないの？ 今日、通し稽古よ。

トモヒロ 通し稽古？

ヤマダ 聞いてないよー。

マナブ いや、通しやるから台詞入れて来いって、メールしたよね？

ヤマダ 聞いてないよー。

ユウ君 右に同じ。

マナブ 送ったよ。

ヤマダ いや、ちゃんと送ったって。

ユウ君 聞いてないよー。

ヤマダ 分かった。マナブ、「J-PHONE」だからだ。あー、「J-PHONE」。

ユウ君 「J-PHONE」、他機種と相性悪いから。

ヤマダ 「J-PHONE」じゃしょうがないよね。

マナブ おいおい。「J-PHONE」馬鹿にすんなよな。

ヨリコ はい、気を取り直して、一回全部通してやってみます。台詞間違っても芝居止めないで。スタンバイ。

一同、散っていく。

ヤマダ あのー、モノマネは・・・。

マナブ ダメだって。やってられないから。

トモヒロ マナブ。『ゴルゴ13』。

マナブ 次回にしろ、次回に。まったく・・・大丈夫かなこんなメンバーで。

ヨリコ ま、なるようになるんじゃないの？

マナブ お前さ、シェークスピアだよ。難しいんだよ。並大抵の覚悟じゃ演じきれないぞ。

ヨリコ はいはい。

マナブ いや、人の話ちゃんと聞いてんのか。

ヨリコ 聞いている聞いている。

マナブ 目を見る。俺の目を見る。

ヨリコ はい、スタンバイ。

舞台上にはマナブひとり。

マナブ ・・・・あーあ。なんか、不安だなあ。

ヨリコ それじゃ、ノーカット一発勝負通し稽古いきまーす。

ヤマダ 音響さん、どーぞ。

音響効果、入る。

暗転。

「プロローグ」

ヨリコ スコットランドには怪物がいる。名はマクベス。戦をさせれば全戦全勝。

向かうところ敵無し、最強の戦士。国王ダンカンからの信頼も厚く、諸侯からの評判もいい。しかし・・・権力というものからは程遠い存在だった。

「戦場」

ノールウェイ兵(T)(Y)(O)、登場。

兵士O 弱い。なんて弱いんだ。

兵士Y これがスコットランドの軍隊か。話にならん。

兵士T 見る。武器を捨て、逃げていくぞ。わがノールウェイ軍の勝利は決定的じやのう。

兵士Y よーし。このまま一気に敵の本陣へ切り込むぞつ。

兵士O 全員、皆殺しじゃあつ。

兵士T 国王ダンカン。クビを洗って待っておれつ。

マクベス(M)、登場。

兵士O そこに。

兵士Y いるのは。

兵士T 何者だつ。

マクベス 貴様等の様な雑魚どもに、名乗る必要はない。

兵士Y なんだとおー。

兵士T お、おい。こいつ・・・マクベスだぞつ。

兵士O なにっ、マクベス。

兵士T 間違いない。マクベスだ。

兵士O スコットランド最強と言われた、あの。

兵士T やばいよ。俺達じゃ勝ち目はねえよ。

兵士Y 何言ってやがる。マクベスを殺したとなりや、褒美がたんまりもらえるぜつ。

兵士O たしかにそうだ。間違いねえや。

兵士Y 野郎ども。やっちまいな。

マクベスに襲い掛かる兵士達。しかし、あっさり殺される。(切られ次第、退場)

マクベス スコットランドの勇者達よ。敵前逃亡するとは何

事だ。恥と名誉の見分けもできんのか。このマク

ベスに続け。やつらを生きて返すなあ。

マクベス、退場。

「スコットランド軍・本陣」

マルカム、登場。

マルカム 将軍。マクダフ将軍。

マクダフ ははっ。

マルカム 戦況はどうなっているのです。マクベスからの連絡はまだ来ないのですか？

マクダフ はっ。先ほどメールを送ったのですが、まだ返ってきませぬ。

マルカム ええい。センターに問い合わせなさいっ。

マクダフ はっ。

マルカム まったく、マクベスのやつ。これだから「J-P H O M E」はやめろと言っておいたのに。

マクダフ ・・まさか、アドレスを変えたのでは？

マルカム 無礼なっ。

ダンカン 騒々しいな。

王ダンカン(T)、登場。

マルカム 父上。

ダンカン マルカム。何を騒いでおる。

マルカム 戦場からの連絡が途絶えております。味方に何かあったのかもしれないん。

ダンカン 何じやと？

マルカム 万一に備え、我々も軍を整えるべきだと存じます。

ダンカン そんな必要はない。

マルカム しかし父上。戦に負けているのかもしれないのですよ。

ダンカン 何をばかな。わが軍にはマクベスがいるのだぞ。父上。

ダンカン あの男がいる限り、スコットランド軍は無敵なのだ。

マルカム ・・・。

マクダフ ああっ。「♪メールが届きました（ついちゃった☆）」。ダンカン様。

ダンカン どうした。

マクダフ マクベスより、メールが届きました。

ダンカン 読み上げよ。

マクダフ はっ。「戦はわがスコットランド軍の、大勝利

でございます」

ダンカン おお。それ見ろ。

マクダフ

「ご命令どおり、ノールウェイ軍をズタズタにいたしました。死体の山を築いてやりましたよ。かつこ。笑い」。以上でございます。

ダンカン うーむ。流石はマクベスじや。あの男こそ、武人の中の武人。真の勇者というものじや。

王ダンカン、マルカム、退場。

マクダフ またしても、一番手柄はマクベスか・・・。

マクダフ、退場。

マナブ ストローツプ。

「演劇部」

マナブ ちよつと、こつち来てーっ。

ヨリコ ちよつとー。とめないでよー。通しでやってんだから。

マナブ いや、見逃せないだろ、これは。

ヤマダ どうしたどうした。

マナブ おい、ヤマダ。お前、モノマネしたろ。

ヤマダ してないよー。

マナブ お前死ぬ時、「アンパンマン」って言ったろ。

ヤマダ 言ってないからー。

マナブ っーか、何で、携帯電話使っちゃってんの。

ユウ君 え？

マナブ フツーにメールとか使ってたよね。ダメだよそんなのっ。

トモヒロ しょうがないよ。僕たち、メール世代だから。

マナブ ワケわかんないっ。

ヨリコ いいじゃん、別に。違和感とかもなかったし。

マナブ いやいや。すごい違和感あったよ。

ヨリコ ストーリーが繋がればいいの。

マナブ 時代考証とか大事だよねっ。

ヨリコ 続きからやるから、スタンバイしてー。

マナブ おい。ヨリコ。
ユウ君 さ、スタンバイ、スタンバイ。
マナブ ・・ヤマダ。もうモノマネとかすんなよつ。
ヤマダ はいはい。
トモヒロ ・・マナブは、何であんなに怒ってんだ？
ユウ君 「J-PHONE」バカにされたからじゃない？
ヤマダ あー、そこかー。
マナブ 違うよつ。
ヨリコ はい、いきまーす。よーい、スタート。

マクベス、登場。

「荒野」

マクベス ・・・。

バンクオー(T)、登場。

バンクオー ここにいたのか。
マクベス バンクオーか。
バンクオー どうした？
マクベス え？
バンクオー なんていつもそうなんだ。
マクベス 何が？
バンクオー 戦いの後、必ず一人で物思いにふける。悩みがあるなら、俺に言えばいいだろ。
マクベス 今日のお前の戦い振りは見事だったな。
バンクオー なあに。お前ほどじゃない。
マクベス 俺の副将として、よく働いてくれている。感謝する。
バンクオー 自分の仕事をしているだけさ。

風音。

バンクオー ・・いやな風だな。全身を舐められている様な・・。

魔女(K)、登場。

魔女

キレイはキタナイ、キタナイはキレイ……。

マクベス

何だこれはっ。

バンクオー

これは幻か。いや、はっきりと見える。

マクベス

不気味な顔に醜い姿、この世の者とは思われぬ。

バンクオー

魔界の者だ。油断するな。

魔女

よう戻られた、マクベス殿。

マクベス

うおっ。

バンクオー

口が聞けるのか。

マクベス

何故俺の名を知っている。

魔女

お前さんのことなら何でも知ってるさ。昔も今も、これからも。何もか

にも分かるのさ、グラミスのご領主。

マクベス

いかにも。確かに俺はグラミスの領主だ。しかし、何故そのことを……。

魔女

今でこそグラミスの領主だが、すぐに変わる。マクベス殿は、近いうち

に、コーダの領主とられる。

バンクオー

コーダだと？

マクベス

ばかな。あり得ん話だ。コーダの領主は生きている。どうして俺がコー

ダの領主などに。

魔女

しかしそうなる。これは運命。お前さんはコーダの領主となるのだ。

マクベス

バンクオー。

言わせておけ。聞くのはタダだ。

マクベス

しかし。

魔女

コーダで驚いてはいかん。お前さんはもともと大きなお人だ。

バンクオー

ほう。どうということだ。

マクベス

バンクオー。

魔女

コーダの領主となった後、マクベス殿は……この国の王とられる。

マクベス

ふざけるなっ。そんな、そんなことあり得んっ。

魔女

しかしそうなる。これは運命。お前さんは王と

なるのだ。

マクベス

バンクオー。そいつを斬りすてろ。人の心を弄

ぶ物の怪だ。

バンクオー

まあ、落ち着け。喋る以外は何もせん。なあ婆さんよ。俺の友達にばか

り予言をするのは少しずるくないか？

マクベス

バンクオー。

俺にも何か、言葉をくれよ。

魔女

マクベス殿が王になったなら、次に王になるのはバンクオー殿だ。

バンクオー

ほう、面白い。

魔女

これは運命。お前さんも王になる。

バンクオー

なぜ分かるのだ。

魔女

決まっているのさ運命なんて。みんな決まっていることさ。

魔女、退場。ロザリオを落としていく。

マクベス ・ ・ 何だったんだ、今のは。

バンクオー コーダの領主になると言われたな。

マクベス 何。

バンクオー そして、王になる、とも。

マクベス ・ ・ ああ。たしかに、そう言われたが。

バンクオー 面白い。

マクベス 信じる気か、あんな魔女の言葉を。

バンクオー 別に、信じちゃいないが。面白なあと思つてさ。

ウマの声。

バンクオー このウマの声は・ ・ 。

マクダフ、登場。

マクベス これはこれは、マクダフ將軍。

マクダフ マクベス。王ダンカンの名において、汝に恩賞を授ける。畏まつてお受けしろ。

マクベス ははっ。

マクダフ まずはマクベス。此度の戦での汝の功績、他の者の及ぶところではない。一番手柄の名誉とともに、新たに領土を加増いたす。

マクベス 身に余る光榮。

バンクオー 將軍。その新たな土地とは、一体どこなのでございますか。

マクダフ コーダである。

バンクオー なんですとっ。

マクベス コーダ。コーダとおっしゃいましたか。

マクダフ 何だ。コーダでは、不満だと申すか。

マクベス い、いえ。コーダの領主は生きております。他人の土地であります。それを下さるとは、何かの間違いでは？

マクダフ それがな。コーダの領主、ノールウェイと手を組み、我等を裏切る計画を立てておったのだ。

バンクオー し、信じられん。

マクダフ すぐさま裏切りの罪で処刑。その領土をお前に授けるといふわけだ。

マクダフ↓ウマ、いななく。退場(②)

バンクオー 魔界の者が、真実を語るとは。

マクベス 予言が、本当に。

バンクオー ・・おめでとう、コーダの領主。

マクベス あ・・ああ。

バンクオー これは、お前が王になるという話も、まんざらウソではなさそうだな。

マクベス おい。ヨリコ。

バンクオー 冗談だよ。

マクベス ・・・。

バンクオー ゆっくり休め。

バンクオー、退場。

マクベス ・・・。

マクベス、魔女の落としたロザリオを拾い上げ、
見つめる。

マクベス この俺が・・王になるだと？

「マクベスの居城」

マクベス夫人(K)、入場。

夫人 あなたが。

マクベス そうだ。

夫人 王に。

マクベス そうなんだ。

夫人 なんて素晴らしい予言なんでしょう。王になるなんて。妻としてこれ以上の喜びはありません。

マクベス おい。なると決まったわけではない。ただ、そう予言されたというだけだ。

夫人 しかしその女、コーダの領主になるコトも言い当てたのでしょ？

マクベス あれは不思議だった。何故分かったのだ。

夫人 その予言は本物でございます。予言どおり、ダーリンはコーダの領主になった。ならば、次は予言どおり、この国の王に・・。

マクベス あり得ん。コーダはまぐれだったのだ。王になるなど、絶対にあり得ん。

夫人 そんな。諦めてはいけません。

マクベス あのなら、王ダンカンは生きている。それに、マルカムという、立派な後継者もいる。何より俺は、王家の血をひいていない。王にはなれん。そういう運命なのだ。

夫人 ・・いいんだ、それで。

マクベス 何が言いたい。

夫人 悔しくないの？ スコットランド最強の武勇を誇る男が、あんな頭の悪い王の下でこき使われて・・いいんだそれで。

マクベス お前。

主婦 (T) (O)、登場。

「団地」

主婦 T あらー、マクベスさんトコの奥さん。

主婦 O ちよつと、聞いたわよー。また戦争で一番手柄をあげたそうじゃないのー。

主婦 T 羨ましいわー。

主婦 O ご褒美も、たくさんもらったんでしょー？

夫人 そんな、褒美だなんて。ダンカン様のお役に立てるだけで、幸せですから。

主婦ら またまたー。

夫人、輪から外れる。

主婦 T あの様子じゃ、褒美はそんなにもらってないみたいね。

主婦 O そりゃそうよ。だってマクベスって、家柄が悪いもの。下っ端は、死ぬまで下っ端なの。

主婦ら、退場。

夫人 スコットランドがここまで領土を拡大できたのは、一体誰のおかげなの？
ダンカン？ それとも、將軍のマクダフ？ いいえ、今のスコットランドがあるのは、マクベス、あなたのおかげじゃない。あなたが毎日毎日血なまぐさい戦場を駆けずり回っているからでしょ。それなのに、今のザマは何？ 評判は一人前でも、権力も満足な領土も与えられない下級貴族のまま。悔しくないの、あなたは？

マクベス 悔しいよ。俺だって悔しいよ。戦いが終わった後、いつも思うのだ。どんなに頑張っても、どんなに領土を削り取っても、栄えるのは王ダンカン。何故だ。何故なんだ。ダンカンが何をした。戦に勝ったのはこのマクベス。その俺が、何故ダンカンなんぞに従わねばならんっ。

夫人 ……本音が出ましたね。嬉しいわ、あなたがそんな風に思ってた。

マクベス ……しかし、だな。

夫人 野心をもっている男の人ってステキ。大好き。

マクベス やはり無理だ。王にはなれん。どうあがこうが、俺は王にはなれんのだ。

夫人 ……私考えたんです。一つだけ、方法があるのですよ。王になる方法が。

マクベス 何？

夫人 誰にも気付かれぬように、ダンカンを…。

夫人、短剣を差し出す。

マクベス ……おい。ちよつと待て。

夫人 これなら王になれますわ。

マクベス 待て。冗談じゃない。

夫人 何故です。王になりたくないの？

マクベス そんな、裏切りだと。

夫人 王冠を奪うのです。

マクベス ……上手くいくわけがないだろう。

夫人 大丈夫。例の予言。

マクベス (ロザリオを見つめる)

夫人 予言も言っています。心配ないわ。

マクベス 確かに、コーダの領主にはなれた。その次は…。

夫人 この国の王とされる。

バンクオー、登場。

バンクオー マクベス。厄介な事になった。

マクベス どうした？

バンクオー マクダフ将軍から俺のところ、ムービー写メールが。

マクベス ムービー写メール？

Y、登場。

Y (ムービー) 「え、うそ？ 今撮ってる？ やめ、ちよ、やめるよ〜」

バンクオー ああ、すまん。これじゃなかった。こっちだ。

マクダフ (ムービー) バンクオー。マクベスに伝える。我等が国王ダンカンは、マクベスに直接会い労をねぎらいたいそうでな、今日中にマクベスの城

をお訪ねなさる。某もお供するが、くれぐれも無礼のないように。あ、それと急な話だが、宿泊の準備もしてくれ。

マクダフ、退場。

バンクオー　そういうことだ。準備を急がねば。

バンクオー、退場。

マクベス　王が、この城に来るだと。それも今日。

夫人　「宿泊の準備」ということは、この城に泊まるはず。王を殺すには絶好の機会。やはり予言は本物。運命が、あなたに王を殺せと言っている。ああ、ついにこの時が、私の夫が、王になる時が・・・。

ウマの声。

ダンカン、登場。マルカム、マクダフ登場。

夫人　みなさま、ようこそいらつしやいました。

ダンカン　突然の訪問申し訳ない。コーダの領主はどこにいる？　早く会いたいものだ。

夫人　ご案内しましょう。どうぞこちらへ。

夫人、ダンカン、退場。

マルカム　マクダフ将軍。父ダンカンをどう思われます？

マクダフ　はっ？

マルカム　マクベスをひいきし過ぎです。

マクダフ　国王のマクベスに対する過分な態度、確かに少々目に余りますな。

マルカム　父には私から言っておきます・・・。

マルカム、マクダフ、退場。

マナブ　ってちよっと待ってよおー。

「演劇部」

ヨリコ　どうしたのよもー。

ヤマダ どうした、どうした。

マナブ ユウ君っ。何でケータイ使ってるのー。

ユウ君 買ったんですよ。ムービー写メール。

マナブ いや、理由になってないよね。

ヤマダ 買ったんだー。

ヨリコ いいなー。

ユウ君 いいっしょ？

マナブ ここは、將軍からの使者がマクベスのところに来るシーンなの。台本ちゃ

んと読めよー。

ユウ君 いや、話の筋は混乱してないぞ。

トモヒロ そうだそうだ。

マナブ 待て。俺の記憶が確かなら、オマエラなんか、へんなことしてたよね。

トモヒロ ああ。

ユウ君 (主婦)「あらー、マクベスさんとこの奥さん」

マナブ それそれっ。何なんだよそれはっ。

ユウ君 夫人の口惜しさが表現できるかと思ひ。

トモヒロ 二人で考えたアドリブです。

マナブ いらないよ、そういうのはっ。

ヨリコ 別にいいじゃん。誰もそんなトコ気にしないよ。

マナブ 気にするだろおー。

ヨリコ 携帯だつて、便利だし、いいんじゃない？

マナブ いや、便利だけど、おかしいでしょどう考えても。

ヤマダ 大丈夫じゃないすか？

トモヒロ いい感じですよ。

ユウ君 僕も、ムービー写メールをもっと自慢したいです。

マナブ 何の話？

ヨリコ はい、スタンバイ。

マナブ おい。ヨリコ。

ヨリコ マナブ。もう少し余裕もつて。ちょっとくらいの逸脱、大目に見てよ。

マナブ 「ちよつと」じゃないよお。

ヨリコ よーい、スタート。

マナブ ・・・。

ヨリコ よーい、スタートッ。

「マクベスの居城・夜」
マクベス。

マクベス やってしまつて、それで事が済むなら、早くやってしまつた方がよい。ダンカンに一撃を食らわせ、引き上げた手に大きな宝が残るなら。しかし、しかしだ。こういうことは、必ず、現世で裁きが来る。悪行を行なつて、タダで済んだものはいやしない。(ロザリオを見つめる)王になるだど・・・
本当なのか？ 本当に俺は・・・誰だつ。

夫人、登場。

夫人 私です。皆様、もうお休みになりましたよ。

マクベス ・・・そうか。

夫人 さあ、始めましょう。ダンカンに、明日の日の出をみせてはなりません。

マクベス ・・・。

夫人 あなた？

マクベス なあ、やめにしよう。こんなこと。王は俺を信用してくれている。それを手にかけるなど・・・。

夫人 あなた。本気でおっしゃっているのですか？

マクベス お前こそ、本気なのか？ こんなこと、本当にやる気なのか？

夫人 あなたこそ、本気なのですか？ こんな生活に、死ぬまで甘んじているつもりなの？

マクベス お願いだ。男にふさわしいことなら何でもやろう。しかし、それも度が過ぎれば、もう男ではない、人間ではない。

夫人 はあ？ 野心を打ち明けた時のあなたはどこに行ったの。あのときのマクベスこそ、真の男。それをやってのければますます男らしゅうなりますのに。情けない。王になりたい、しかし手は汚したくない。なんという腰抜け。魚は食いたいが手は濡らしたくない、の猫そっくり。そうして一生、だからだとダンカンの下で暮らすのね。

マクベス それは御免だ。

夫人 ならば。

マクベス しかし。

夫人 しかし、しかし、しかし。あなたはいつまで自分から目をそむけるの？ 王になりたいなら、なればいいじゃない。ダンカンを殺して、王になるので。殺すのです、ダンカンを。

マクベス ・・お前は、俺のことなど、愛していないのだから？

夫人 愛しているわ。愛しているからこそ、あなたには誰よりも偉くなつて欲しい。あなたが人の下にいるなんて、耐えられない。

マクベス ・・・。

夫人 証拠を残さなければいいだけの事。大丈夫。上手くいきます。さあ、一緒に、こちらへ。

マクベス

夫人 (ニヤリ)

夫人、退場。

マクベス 何故こんなにも恐ろしい？ この寒気は何だ。たかが老いぼれ一人を殺すだけではないか。今まで何人殺した。(ロザリオを見つめる) 予言がそう言っている。俺をコーダ領主にした女が、そう言っているのだ。大丈夫だ。俺は、王になれる。王になれる

マクベス、退場。

暗転。

物音。

「マクベスの居城・数時間後」
マクダフ、登場。

バンクオー 將軍、お気を確かに。

マクダフ 何たることだ。こんなに恐ろしい事が、またと

あるうか。

マクベス しっかりしてくださいませ。

マクダフ 誰が、一体誰がダンカン様を。早く、110番通報だ。

マルカム、登場。

マルカム どうしたのです、この騒ぎは。

マクダフ マルカム様、一大事でございます。お父上が、殺されてしまったのです。

マルカム なんと。

マクダフ 一体誰が、このような事を。

マクベス とりあえず大広間に集まりましょう。国家の行く末について皆で話し合わねば。

全員退場。

夫人、登場。台本を持っている。

夫人

あなた、よろしいですか？ なんとしても王位を手に入れるように取り計らうのです。バンクオーどのも、あなたに協力すると約束してくれました。私の作ったこの台本どおりにやれば、上手くいきます。

夫人、退場。

マクベス、バンクオー、マクダフ、登場。

マクダフ

皆の者。ダンカン様がお亡くなりになり、嘆き悲しむ気持ちによく分かる。しかし我等は、王家に忠誠を尽くす者として、早急にやらねばならんことがある。すなわち、新たなる国王の擁立。幸い、ダンカン様にはマルカム王子という立派なご息がおられる。そのマルカム様に国王の座を継いでいただくつもりだ。何とぞ協力してもらいたい。

バンクオー

異議あり。

マクダフ

バンクオー。どうしたのだ。

マルカム

マルカム？ あんなヤツに王位を継がせるなど、私、賛成いたしかねます。

マクダフ

「あんなヤツ」・・無礼な。マルカム様は正当なる王位継承者であられるぞつ。

バンクオー

その王位継承者が、なぜここに姿を見せぬのです。

マクダフ

それは・・。

バンクオー

この非常時に、マルカム様は、一体どちらへ。

マクダフ

・・。

マクベス

どこへ行かれたのです？

マクダフ

それが・・先ほどからお姿が見えんのだ。

バンクオー

任せられませんなあ。そのようなお人に国王など。

マクベスとバンクオー、アイコンタクト。

バンクオー 「皆の者、どうであろう。王が死に王子が消えた今、ここはひとつ、マ

クベスに王になってもらおうではないか」

マクダフ な、何を言っている貴様。

マクベス 「何を言うバンクオー。マルカム様が王位を継がれるのが筋と言うもの。

それに俺は、王になるような器ではない」

バンクオー 「マクベス。今は戦国の世。国王はぜひ強い男に」

マクベス 「だめだ。俺には王は無理だ」

バンクオー 「ばかやろおー（殴る）」

マクベス 「うわーあ」

バンクオー 「お前が王にならなくて、誰が王になるのだ。ダンカン様のご意志を引き継げるのは、君しかない」

マクベス 「バンクオー。俺が間違っていたよ。わかった。やるよ。俺が王になつて、スコットランドを繁栄させるよ」

マクダフにサス。

マクダフ 何だこの茶番はっ。マクベスが王に。信じられん。（ハツとして、携帯を取り出す）もしもし。もしもし。

マルカム、登場。マルカムにサス。

マルカム ・・將軍。

マクダフ マルカム様っ。どちらにおいでなのです。ああ、とにかくお戻りください。

今なら間に合います。このままでは、とんでもないことに。

マルカム マクダフ將軍。・・私は、イングランドに行きます。

マクダフ イングランド？

マルカム 亡命するのです。イングランド王に救いを求めます。もう国内にはいられません。

マクダフ 何を仰せられます。

マルカム 父ダンカンが殺されました。次に狙われるのは私です。

マクダフ 一体、誰に狙われると。

マルカム 分からないのですか將軍。マクベスに決まっています。あの男が王位ほしさに父を殺したのです。

マクダフ たしかに、マクベスは怪しい。ですが・・。

マルカム 私は逃げます。殺されるのはごめんです。

マルカム、退場。

マクダフ マルカム様つ。そんな・・・この国は、どうなってしまふのだ。

暗転。

明転。

「団地」

主婦ら。

主婦O ちよつと聞いたよー。

主婦T 聞いたわよー。

主婦O マクベスが、王になったんでしょー。

主婦T びっくりよねー。

主婦O マルカム王子はどうしたのさ。

主婦T それがさー、ビビって逃げちゃったらしいのよ。

主婦O 情けなーい。

主婦T それより、困った事は、マクダフ將軍っているじ

ゃん。

主婦O マクダフがどうしたのよ。

主婦T それがさー、マクベスが王になるなんて納得できないって言って、自分の城に閉じこもっちゃってるんですって。

主婦O えー。マクベス怒るでしょー。

主婦T もうカンカンよー。もしかしたら近いうち、戦争になっちゃうかもよー。

主婦O あ。

夫人、登場。

夫人 こんにちは。

主婦T ああ、こんにちは。

主婦O こんにちはー。

夫人、輪から外れる。

主婦T ねえねえ、ダンカンを殺したのってさあ、もしか

して・・・。

主婦O しっ。そんなこと口に出したら、何されるかわかんないわよ。相手は王様よ。

主婦ら、退場。

夫人 ついに夫が国王に。マクベス様、あなたはやれるお人だと、私信じておりました。あなたの元へ嫁いで、今初めて幸せを感じております。

マクベス、登場。

夫人 まあ、どうなさつたのです。今夜はあなたの国王就任を祝う宴が開かれます。そのように暗い顔をなさってはせつかくの宴も台無し。

マクベス ・・ああ。

夫人 あなた？

マクベス ・・バンクオーだ。

夫人 やはり、あなたも同じをこと考えていましたか。

マクベス 魔女の予言は全て当たっている。コーダ領主。スコットランド国王。ならば次は・・。

夫人 次に王になるのは・・バンクオー。

マクベス なんとということだ。せつかく手に入れたこの王冠も、やつに奪われるというのか。

夫人 仕方ありません。手を打ちましょう。

マクベス どうするのだ？

夫人 知れた事。殺しましょう。バンクオーも殺すので

マクベス バンクオーは、友だぞ。幼い頃よりの。それを・・。

夫人 何のためにダンカンを殺したのです？ 王冠を手にしたからには守らなくては。運命と戦いましょう。

マクベス ・・運命？

夫人 次に王になるのは、バンクオー。

マクベス ・・殺すか。バンクオーも殺すか。

夫人 殺しましょう。邪魔者は殺しましょう。

マクベス しかし、どうやって殺す。

夫人 大丈夫です。腕利きの殺し屋を雇います。

マクベス 殺し屋だと。

夫人 『ゴルゴ13』。殺しの腕は世界一です。

マクベス よし。連絡をしろ。バンクオーを殺せ。

バンクオー、登場。

バンクオー かし、よく手に入れたな。コーダ、国王、あの魔女の予言通りではな
いか。そのためには随分手を汚したようだが、まあ、ご苦労さん。この
調子で行けば、俺が王になるという予言も……。

ヤマダ、登場。「ズキューン」(銃声)

バンクオー、倒れる。

「演劇部」

マナブ これはないだろー……。

ヨリコ ちよつと。どうしたのよ。

マナブ 何でゴルゴ13だよ。何でアイツの「ズキューン」なんだよつ。

ヨリコ え、だから、ゴルゴに撃たれたってことなのよ。

マナブ そんなの分かるよつ。お前だよね？ お前が最初にゴルゴって言ったよ
ね？

ヨリコ 我ながら、いいアイデアだわ。

ヤマダ いやー、よかったねー。

トモヒロ まさか、ゴルゴとモノマネがこんなにしっくりく
るなんてね。

ヤマダ ヨリコ、ナイスアシスト。

ヨリコ すごいでしょー。もっと褒めてちょうだいっ。

マナブ だめだよー。やっぱり、暗殺者が登場しないと。

ヤマダ いや、ゴルゴが登場したじゃん。

マナブ だから俺が言いたいのは。

ヨリコ あー。ゴルゴが、ちゃんと舞台上に登場した方が
いいと。

マナブ いやいや、何でそうなの？

ヤマダ 俺は所詮効果音だもんなー。

トモヒロ じゃあ俺、ゴルゴ13やるぜ。

ヨリコ えー、似合わねーよ。

ヤマダ どっちかっていったら、ゴルゴ松本だよね。

ユウ君 ちよつと皆さんっ。少々オフザケが過ぎるので
は？

マナブ おお。ユウ君。やっと俺の気持ちが変わってくれ
たかつ。

ユウ君 まったく。モノマネばかりしやがって。

マナブ そうだそうだ。

ユウ君 こうなったら、俺もモノマネするぞつ。
マナブ え、ユウ君？ ユウ君っ？

ユウ君 『美川憲一』

マナブ もういいよそれはっ。

ヨリコ あー、時間ない。皆、早くスタンバイっ。

マナブ ちよつと・・・。

スタンバイしているヨリコ。

マナブ もうやめよう。こんなの、演劇じゃない。

ヨリコ スタンバイして〜。

マナブ どいつもこいつも、勝手なことばっかして。陳腐というか、芝居は完全に破綻してる。もう続ける意味は無い。

ヨリコ スタンバイして〜。

マナブ おい。何でこんなことになるんだ。何で、芝居潰してまで、好き勝手やるんだ。演劇をバカにしてんのか。

ヨリコ 楽しいからでしょ？。

マナブ あ？

ヨリコ ここにいることが、楽しいからでしょ？ 好きなことをやる、ただそれだけで楽しいのよ。もう少し、付き合っつ。

マナブ ・・・どういう意味？

ヨリコ スタンバイして〜。

マナブ、スタンバイする。

ヨリコ 携帯。

マナブ は？

ヨリコ マクベスの携帯にゴルゴ13から、バンクオー暗殺が成功したとの連絡が入りました。

マナブ え、ええっ。

ヨリコ よーい、スタート。

「マクベスの居城」

マクベス おい、バンクオーが死んだぞ。

夫人 さすが、ゴルゴ。仕事が早いわ。

マクベス これでもう邪魔者はいない。

夫人 マクダフ。

マクベス 何。

夫人 マクダフですよ。あの者だけ、今夜の宴には参加しないそうです。

マクベス な・・・どういふことだ？

夫人 (電話) とうるるりん。とうるるるりん。

マクダフ、登場。夫人とマクダフにサス。

マクダフ はい。マクダフです。

夫人 もしもし。マクダフ殿ですか。私です、私。

マクダフ え？

夫人 今夜は、主人の国王就任を祝う宴が開かれるのですよ。是非いらしてくださいませ。

マクダフ ・・『お客様のおかけになった電話番号は、現在使われておりません』

夫人 も、もしもし？ もしもーしつ。

マクダフ、退場。

夫人 ・・というわけなのですよ。

マクベス なんと無礼な。

夫人 あくまでも、あなたに逆らうおつもりなのでしょうね。

マクベス 時勢の分からぬ愚か者だ。

夫人 まあ、マクダフのことはあとで考えましょう。とりあえず、今日の宴を楽しみましょう。

マクベス ああ。

夫人、退場。

マクベス まさか、予言が当たるとは。本当に、俺が王になるとはな。嬉しい限りだ。

(ロザリオを見つめる) 貴様が予言してくれたおかげだ。予言がなければ、王になるなど、心にも思わなかっただろう。

古畑 (Y)、登場。

マクベス ? あなたは？

古畑 あー、警視庁の古畑です。

『古畑任三郎』のテーマ。

古畑 ダンカン様のこと、二三お聞きしたい事が。

マクベス ええ、構いませんよ。

古畑 えー、ダンカン様が殺された夜は、どちらに？

マクベス え・・わかりません。

古畑にサス。(ドラマを忠実に再現)

古畑 ・・えー、どう見ても怪しいです。しかし問題は、今回の犯人は、国王と
いうことです。事件が解決したところで、逮捕できるかどうか。いやー、
んふふふ・・。古畑任三郎でした。

暗転。

明転。

「宮中大広間」

司会者(Y)。

司会 レディース・エーンド・ジェントルメン。今晚はあー。長らくお待ち
してごめんね。マクベス様の国王就任を祝うパーティー、始まるよー。
司会を務めるのは俺、よろしくね。それじゃあ早速、今夜の主役に登場
してもらおう。マクベス様、マクベス様ー。

マクベス、夫人、登場。

司会 いやー、マクベス様。国王就任おめでとございます。

マクベス ああ、ありがとう。

司会 今日はですね。国王就任をお祝いする為に、スコットランド中の貴族や武
将、偉い人たちが全員大集合しておりますよー。スバラシイですねえー。

バンクオーの亡霊、登場。

マクベス ・・そんな。

司会 どうしました？

マクベス ・・バンクオー？

司会 はい？

マクベス バンクオーなのか。

夫人 あなた？

司会 バンクオー様は、お見えではありませんが。

マクベス バカな。貴様、死んだはずでは、何故そこにいる。

夫人 あなたつ。あなたつ。

バンクオーの亡霊、消える。

司会 ・・あの、何か、お気に触りましたでしょうか？

夫人 いえ、大丈夫です。どうしたのです急に。

マクベス バンクオーだ。やつの亡霊が。たった今そこに。

夫人 え？

マクベス お前には見えなかったのか？

夫人 何も見えません。しっかりしてください。宴の最中なのですよ。

マクベス 間違いない、バンクオーだ。

夫人 あなた。悪ふざけはやめてください。

司会 えっと、続けてよろしいですか？

夫人 構いません。どうぞ。

マクベス 確かに見たんだ。信じてくれ。俺は。

バンクオーの亡霊、登場。マクベスの背後からマクベスに掴みかかる。

司会 えーと。まあ、そういうった中で、今日はですね、新国王マクベス様と一緒に

に過ごす二時間三十分。皆様どうぞ最後までごゆっくり・・。

マクベス ぐわああああ。

夫人 あなたつ。

マクベス やめろ。王冠にさわるなあ。・・笑っているな。ええい何がおかしい。何
がおかしいのだ。来るな。来るなあつ。

マクベス、退場。

夫人 あなたつ。

司会 ああつ・・ちよつとー。

「マクベスの居城・別室」

マクベス、夫人、駆け込んでくる。

マクベス ・・・。

夫人 なんとという情けないザマ。ありもしない幻に怒鳴ったり、わめいたり・
宴は台無しです。

マクベス 何故だ。何故バンクオーが現れた。

夫人 本当に言っているのですか？ 亡霊などと。そんなものいるわけないでし
よう。

マクベス 何のために・・・。

夫人 あなた、早く戻りましょう。皆さんお待ちです。

バンクオーの亡霊、登場。

マクベス ・王冠を欲しがっているのか。

夫人 (このとき初めて亡霊の姿を見る) あ、ああ・・・。

マクベス たしかに予言では、俺の次はお前が王になるはずだったな。だが、そうは
いくか。主君殺しをやつてのけてまで手に入れた王冠。渡さんぞ。バンク
オー。お前はもう死んだ。所詮は幻。立ち去れ。王冠は渡さん。

バンクオーの亡霊、退場。

夫人はおびえながら退場。

マクベス 消えた。そうだろう。バンクオーは死んだ。もういない。渡さんぞ、誰に
も渡さんぞ。いや、まだ安心はできません。マクダフがいる。あの男をなんと
かしなければ・・・。

ロザリオを見つめるマクベス。

マクベス ・よし。

マクベス、退場。

夫人 ・・・・。

マルカム、登場。

「イングランド・宮殿」
マルカム。

マルカム スコットランド。おお、スコットランドよ。光り
輝くあの国が、今ではマクベスの囲い者。哀れ

なのは国民です。聞くところによると、マクベスの悪政により、苦しい生活を強いられているらしい。何ということでしょう。

マクダフ、登場。

マクダフ 祖国の運命をお嘆きになる前に、どうしてそれを救おうと思わないのです。

マルカム マクダフ将軍。何故ここへ。スコットランドにいるはずでは？

マクダフ スコットランドを暴君の手から取り戻す為、馳せ参じました。マルカム様。今こそ、ご決断のときです。

マルカム 決断とは？

マクダフ マクベスを倒しましょう。そして、マルカム様が新たなる国王として即位するのです。

マルカム マクベスを倒す・・・正気なのですか？ 私たちだけで、そんなことできるわけが・・・。

マクダフ ご安心を。戦うのは我等だけではありませんせぬ。

イングランド王(T)、登場。

マルカム イングランド王。

王 (何故か美川憲一) ちよつとー、話はマクダフから聞いたわあ。そういうことなら、あたしも協力するわよ。あなたかわいいから、特別に、あたしの軍隊貸しちゃう。

マルカム なんとという寛大なお心。流石はさそり座の女。

王 ありがと。

マクダフ スコットランド国内にも、マクベスに荷担していながら、不満を抱いている者は数多い。それらを味方につければ、マクベスなど容易く滅ぼせます。

マルカム マクダフ将軍。

マクダフ ははっ。

マルカム このマルカムの名において、マクベス討伐軍を起こします。すぐに味方を集めるのです。

マクダフ それでこそ、マルカム様。スコットランド王家の血を引きし者。

「荒野」

マクベス。

マクベス 魔女よ。どこだ、どこにいる。マクベスが戻ってきたぞ。

魔女、登場。

マクベス 出たな。

魔女 どうなされた、マクベス殿。不安に満ちたそのお顔。よつぽどマクダフが怖いと見える。

マクベス さすがだ。俺の心をよく読み取った。なあ、頼みがある。お前のその魔力、運命を見通す魔力で、俺の問いに答えてくれ。

魔女

お易いご用さ。何でも聞いてくれ。

マクベス お前の予言どおり、俺は王になった。しかし、次はどうすればいい？ 運命は、どうなっている？ 教えてくれ。言葉をかけてくれ。

魔女

マクベス。マクベス。マクベス。恐れるな。何も怖くない。マクベスを殺せる者はいないのさ、生きた女の腹から生まれた者の中には。

マクベス

生きた女の腹から？ そこから生まれてこなか

った者など、一体どこにいる。どいつもこいつも、女の産み落とした者ではないか。つまり、俺は誰にも殺されないということか？

魔女

運命なのさ。全部決まっている事さ。

魔女、退場。

マクベス 安心した。今の言葉を聞いて。マクダフが何だ。もう何も怖くはない。

マクベス、携帯を取り出す。

マクベスにサス。

マクベス 誰だ？

マクダフ 俺だ、マクベス。

マクダフ、登場。マクダフにサス。

マクベス マクダフ。

マクダフ 用件だけ伝える。マルカム様の名のもとに、我等は貴様の討伐軍を起した。

マクベス 何だと。

マクダフ イングランドも協力してくれるそうだな。総兵力は今のところ十万だ。
マクベス 十万……。何故だ。この短期間で、何故そこまで

の人数をつ。

マクダフ 「マクベスを倒したいと思っっているそのあなた☆マルカム様と一緒に戦
いませんか？ このメールを二十四時間以内に五人のオトモダチに転送
してください……」

マクベス チェーンメールだとおつ。犯罪だぞつ。

マクダフ なあに。国王殺しよりはマシだ。お前の味方だった者も、次々にこちらに
寝返っているぞ。お終いだ、マクベス。今日明日のうちに、貴様の城に総
攻撃をかける。

マクベス ・・十万といったな？ 総兵力が。

マクダフ ああ、そうだ。恐ろしくて声も出ないか。

マクベス 十万・・十万人いれば、俺一人を殺せるって言うのか？ 笑えねえ冗談だ
な。全員殺すぞ、俺一人で。

マクダフのサス、暗転。マクベスだけにサス。

マクベス どんなに兵を集めようと、所詮は烏合の衆。生きた女の腹から生まれてき
た、そんな人間の集まりだろ。返りうちにしてくれる。

「マクベスの居城」

夫人。

マクベス おい。何をしている。

夫人 血が。血が落ちないのでございます。。

マクベス 何？

夫人 ダンカンの返り血が、私の血を真っ赤に染めてお
ります。

マクベス 血などついておらんぞ。

夫人 落ちない。洗っても全然落ちない。

マクベス おい。お前。

夫人 バンクオー。あなた、バンクオーですつ。

マクベス おい。

夫人 バンクオーの亡霊が。ほら、そこに。ほら。

マクベス 何も見えん。そんなもの幻覚だ。

夫人 幻覚？ これが幻覚なのですか。ほら。ほら、
そこに。

マクベス いい加減にしろつ。

夫人 ……。

マクベス ……どうした。いつものお前らしくないぞ。

夫人 ……やめましょう。もうやめましょう。ダンカンを殺し、バンクオーを殺し、これ以上罪を重ねてはいけません。

マクベス 今さら、何を言っている。

夫人 まだ間に合います。王冠を捨て、国外へ逃亡するのです。王冠を載しているうちは、真の安らぎなど得られません。

マクベス ばかな。王位を放棄せよというのか。

夫人 このままでは、気がふれてしまう。毎晩毎晩悪夢にうなされて…ああ、まだここに血が。

マクベス ついておらん。。お前が勝手に見ているだけだ。

夫人 助けてください。私はもういやです。こんなに苦しむのなら、王位など欲しがるんじゃないやなかつた。

マクベス ……なんだと？ 王を殺せといったのは誰だ？ 王冠を奪えといったのは？

夫人 ……あなた、逃げましょう。宴は終わったのです。

マクベス おいつ。

夫人 JRに電話をしましょう。「はやて」に乗りましょう。

マクベス 待てっ。

夫人 今なら東京・八戸間が二時間五十六分…。

マクベス やめろっ…。

夫人 (電話) もしもし。はい。二席なんです。…え？あなた、どうしました。よう。席が空いていないそうです。

マクベス、夫人の体を剣で串刺しにする。

夫人、倒れる。

マクベス 俺の邪魔をするなあ…。

マクベス、夫人を見る。

マクベス ……何だこれは。妻が死んだぞ。愛していたのに、誰よりも愛していたのに、殺した。誰が？俺が…。

マクベス、嗚咽を漏らす。

その後、堰を切ったように笑いだす。

マクベス　しかし何だっ。悲しみが湧いてこない。涙も出てこない。それどころか、邪魔者が減って安心しているぞ、俺は……。あぁ……。俺は完全にどうかしまってる。王冠を求めるあまり、戻れないところまで来てしまった。どうする？　しかし、こうも考えられる。まともな神経を失ってまで手に入れた王冠、人に渡してなるものか。マクダフ、邪魔はさせん。死んでもらうぞ。

「戦場」

インドランド兵(T)(Y)(O)、登場。

兵士Y　マクベスはどこだー。
兵士O　マクベスを探せー。
兵士T　マクベスを殺せー。
兵士Y　マクベスはどこだー。
兵士O　マクベスを探せー。
兵士T　マクベスを殺せー。

兵士たち、退場。

マルカム、マクベス、退場。

マクベス、登場。

マクベス　来たな。イングランドの兵士ども。この首が欲しいのか？　残念だったな。お前等には俺は倒せん。そういう運命なのだ。

マクベス、退場。

マルカム、マクダフ、登場。

マルカム　これはどうしたことでしょう。数万のイングランド勢が、たった一人を討ち取れないでいる。

マクダフ　さすがはマクベス。それでこそスコットランド最強の戦士。

マルカム　・まさか、マクベス一人に、私たちが負けるという事は……。

マクダフ　やつはバケモノです。ありえます。
マルカム　そんな……。

マクダフ マルカム様。安全な場所へ避難していただきます。やつに襲われては、ひとたまりもありません。

マクダフ、退場。マルカム、退場(②)。

兵士T マクベスはどこだ！

兵士Y 見失ったぞ！

兵士T マクベスを探せ！

兵士Y マクベスを殺せ！

マルカム、登場。

別の場所からマクベス、登場。

マクベス マルカムか。

マルカム マ、マクベス……ここで会ったが百年目つ。父の仇、取らせてもらうぞ
(身構える)。

マクベス ほざけ、小僧。父親と同じところに送ってくれる。

マルカム、マクベス一騎打ち。マルカム劣勢。
イングランド王、登場。

マルカム イングランド王。

王 早く逃げなさい。早く。

マルカム しかし、あなたは。

王 死ぬのは私一人で十分よ。

マルカム そんな……。

王 早く。

マルカム、退場。

マクベス 一国の王たるものの取るべき行動ではないな。

王 後悔はしてないわ。だって私は「さそり座の女」。

そして、あの子が好きだからっ。

マクベス 望みどおり、殺してやろうっ。

一騎打ち。王、必殺技でマクベスを転ばせる。

王 立ちなさい。

マクベス …… (立ち上がる)。

王 次は、容赦しないわよ。

マクベス それはこっちの台詞だ……。

マクベス、一瞬にして王の懐に入る。

王 な……。

マクベス 王殺しは二度目だ。(切りつける)

王 いやあーん……。

マクベス 無駄だ無駄だ。貴様も女の腹から生まれた男。俺は倒せんだ。

マクダフ (登場) マクベス。

マクベス うおおっ。

マクベス、マクダフ、打ち合う。王、避難する。

マクダフ イングランド王っ。早くお逃げください……って、

いないっ。

マクベス なるほど。マクダフか。少しは、楽しませてくれ

そうだな。

混戦。マクダフ、追い詰められる。

マクベス 貴様もここまでか。やはり予言は真であった。

マクダフ 予言だと？

マクベス 俺を王にしてくれた者が約束したのだ。生きた女の腹から生まれた者にマクベスは倒せない、とな。

マクダフ 生きた女の腹から、生まれた者……。

マクベス マクダフ、これまでだ。死んでもらうぞ。

マクダフ されば、残念だったなマクベス。このマクダフの話を知らんのか。

マクベス 何……？

マクダフ 難産でな。俺の母は、俺を産み落とす途中で命を落としたのだ。俺は死んだ母の腹から引きずり出された。それは、「生きた女の腹から生まれた者」ではあるまい。

マクダフ、笑い出す。

マクベス、絶叫。

暗転。

「演劇部」

マナブ、ヨリコ。

マナブ ……このメンバーで、マクベスをやろうとした俺がバカだった。
ヨリコ ……。

マナブ 中止だ中止。もう一回、作品から考え直すよ。
ヨリコ 私は、いいと思うけどな。

マナブ あ？
ヨリコ なかなか、面白いマクベスじゃない？

マナブ ふざけんなって。面白いのはオマエラだけだろ。
ヨリコ あんたは？

マナブ え？
ヨリコ 面白くなかったの？ やってて？

マナブ ・正直、ちよつと面白かったよ。
ヨリコ でしょ？ じゃあ、いいじゃん。

マナブ よくない。そんなの自己満足だろ。俺たちが面白くても、お客さんの鑑賞
に堪えるものじゃなきゃ意味無いの。

ヨリコ 「お客さんに、楽しんでほしい」？
マナブ そうだシェークスピア作品の素晴らしさに触れ
てほしい。

ヨリコ それも、あなたの自己満足じゃないの？

マナブ ……。
ヨリコ ……。

なんか、口ではいいこと言ってるけど、結局それも自己満足でしょ？ 芸
術ってのはさ、どんなにキレイごと並べても、最終的には自己満足に帰っ
てくるの。歌を唄いたい、絵を描きたい、モノマネをやりたい、マクベス
をやりたい。どれも同じよ。そこには傑作も駄作も、崇高も低俗もないの
よ。

マナブ ……。
ヨリコ ……。
マナブ だからさ、どうせやるなら、徹底的にやりましょうよ。楽しんで楽しんで
楽しみまくるのっ。いいじゃん、私たちが楽しいんだから。こんなに自分
を肯定できるなんて、素晴らしい事だと思わない？

マナブ ……少し、考えさせろ。今晚メールするから。
ヨリコ 「J-PHONE」だから、届かないかも。

マナブ バカにすんなよつ。

ヨリコ お疲れ様。

マナブ 帰れ帰れつ。

ヨリコ、帰ろうとするが……。

ヨリコ あ。そうそう。何でマクベスが悲劇って呼ばれてるか分かる？

マナブ と、唐突だな。

ヨリコ 私考えたんだ。多分ね、最後の最後で予言のどんでん返しをくらう、あの部分が悲劇って言うてるんじゃないんだよ。結果じゃなくて、マクベスは存在自体が悲劇なんだよ。王冠を戴いたマクベスの姿が、どうしてあんなに哀れ見えるのか？ それは、マクベスは自己満足してないから。どんなに成功を収めても、それが自分自身で納得のいくものでなければ、「幸せ」じゃない。それはきつと「不幸」だよ。私は、そうだと思う。

マナブ 勝手な解釈だな。

ヨリコ 悪いの？

マナブ ・・いや、キライじゃないよ。

ヨリコ お疲れ〜。

ヨリコ、退場。

閉幕。

※傍線部は、新潮文庫『マクベス』福田恆存訳を参考にした。

◆作品によせて（中屋敷法仁）

『贗作マクベス』は2002年、僕の母校である青森県立三本木高校演劇部が地区大会で発表した作品です。

当時、3年生で部長と演出を務めていた僕は、次の大会に「マクベス」で出場することを部内で提案しました。主人公マクベスを演じるのは僕自身。演劇部の引退作として、一番好きな既成戯曲を選んだのです。

ところが：「難しい話はやりたくない」「ギャグをやりたい」という他の部員達は、稽古中からアドリブを連発。本格的な古典演劇に挑戦したかった僕とは、真つ向から対立しました。稽古場でなんどもモメるうちに、やがて、後輩たちのギャグに賭ける純粹な思いに、僕自身が感動してしまいました（！）。

「マクベスをやりたい」という僕の気持ちと「ギャグをやりたい」という皆の気持ち……。どちらも、表現に対する真つすぐな気持ちは同じ。どちらが良い／悪いということとは無いのだと、思い至りました。

それからは「マクベス」という僕のやりたい作品に、部員達のやりたいギャグやアイデアをたっぷりと詰め込みました。どこまでも、わがままに。ひたむきに。そして生まれた『贗作マクベス』は、“僕たちの”やりたい演劇となりました。

大会に挑んだ結果、県大会、東北大会を突破し、翌2003年には初の全国大会に出場することになりました。さらに「優秀賞」と「創作脚本賞」を受賞。“地区大会敗退”が当たり前だった僕たちにとって、これはまさに快挙でした。

ただ、これは決して、脚本や演技の力ではないと考えています。
「自分たちが本当にやりたいものとは何なのか」そこに対する探究心を最後まで持ち続けた結果だと思っています。

荒削りな戯曲ですが、当時の僕たちの熱意を少しでも感じてもらえたら幸いです。

◆上演について（中屋敷法仁）

もし「『贋作マクベス』を上演してみたい！」と思ってくださったら…
作者として3点だけ、アドバイスのようなものをお伝えします。

・「配役」について

この台本では、一人複数役を担当する事で最低「5名」で演じることになっています。が、部員の人数に応じ、演じる役を増やしても結構です。とにかく、部員全員で楽しんでもらえたらと思います。

・「ギャグ／モノマネ」について

台本には2003年当時の、僕たちの小ネタがたくさん入っています。これらは是非、皆さまの世代の感性で変更してください。モノマネも是非、得意なものがあれば採用してください。その他、歌やダンス、一発芸などなど、やりたいものはとにかく、やってみて良いと思います。僕たちが上演した際も、この台本に載せられないほどの大量のアドリブがありました。アイデアを出し合い、持ち寄り、作品を自分たちの表現に近づけてください。

・「マクベス」について

一度でいいので是非、原作の「マクベス」も読んでください。シェークスピア作品の中でも最も短く、読み易いと思います。原作に触れる事で、何か新しいひらめきが生まれるかもしれません。

「マクベス」という50年前の名作が、皆様の「今」の情熱と混ざり合うことで、さらに新しい表現が誕生する。それこそが『贋作マクベス』の願いです。

※ 『贋作マクベス』の上演を希望する場合は、有料／無料に関わらず、必ず一度ご連絡ください。練習で使用する際には許可は不要です。